事件を振り返って

Ｎ・Ｓ

私は、飲酒運転をし、取り返しのつかない大きな事故を起こしました。

事件当時は、飲酒運転が厳罰化されていることを知ってはいましたが、自分が人の命を奪ってしまうとは思ってもいませんでした。

飲酒運転はいけないことだと分かっていたのですが、私は飲酒運転を繰り返していたのです。少しくらいお酒を飲んでいても三、四時間休めば車を運転しても大丈夫だろう、警察の検問に合わなければ帰れるだろうと、自分の都合のいいようにしか考えていませんでした。もしも、飲酒運転で捕まって免許が取り消しにでもなれば困るなとは考えましたが、人の命については深く考えることもなく、法律を軽視していたのだと思います。自分が事故を起こして他の人を巻き込んでしまうとか、飲酒運転をすること自体が殺人行為を犯しているとは考えなかったのです。

自分勝手な都合で飲酒運転をし、私は自分のことしか考えず、悪質な交通事故を起こしました。そして、尊い人の命を奪ってしまったのです。人として許されない行為をし、本当に愚かだったと思います。

被害者の人は、まだまだやりたいことや夢や希望もたくさん有ったはずなのに、突然命を奪われてしまい、無念でならないと思います。

被害者の御遺族も大切にしてきたかけがえのない人を突然奪われたのですから、どんなに歳月が流れても、気持ちは事件の日から止まったままなのではないかと思います。

私は、刑務所の中で、自分が犯した罪を反省し、被害者や御遺族の心情

を考えていますが、償いということを考えると、自分に何ができるのかと思い悩んでいました。

　そのような時に、改善指導というものに参加させてもらう機会があり、交通事故の被害者の御遺族と直接お会いして話すことができました。その方は、「いのちのミュージアム」という活動をなさっていて、色々な想いを打ち明けて下さいました。亡くなられた子供さんのこと、残された家族の日々、加害者に対して思うことなど、事件の日から今までの心境を語りかけてもらい大変貴重な時間となりました。御遺族の方は、ずっと返ることのない大切な人のことを想って生活しているけれど、大きな喪失感が残ったままなのだと感じました。

　私の事件の御遺族も苦しい思いをしていると思います。事故を起こした加害者だけが助かって、これからもどこかで生きているなんて許したくないと思うからです。

　私は、自分が事故を起こしたことで、家族にも多大な迷惑を掛けました。まだ小学生だった子供もいたので大きな傷を与えてしまったと思っています。今は、子供との連絡も取れないため、どのように生活しているのかもわからないですし、最低な母親でしかありません。

　事故を起こす前から家族の問題があったのですが、私はきちんと向き合わずに逃げてばかりいました。嫌なことから目をそらし、楽な方へ楽な方へと逃げた結果が飲酒運転まですることに繋がったのだと思います。当時は自分のしていることが客観的に見られませんでしたが、今は違う選択肢もあったのだと思うようになりました。人の命を犠牲にしてしまってから

自分の犯した罪を後悔しても遅いですし、家族が一緒に暮らせることの有難さに気付けなかった自分を振り返ると、申し訳ない気持ちでいっぱいになります。

私は、事故を起こした本人であるのに生きていることも心苦しく思っています。でも、自分が生きている間は、一日たりとも被害者を忘れてはならないと思っています。だから、これから私は、いつも被害者の人の目が私を見ていると思って生活していきます。御遺族にも私の連絡先などを伝えて、何かあれば話せるように伝えていこうと思います。一生赦されることがなくても、自分の気持ちは伝えて自分ができることをしていくしかないと思います。この手記も、今自分ができることの一つだと思い書かせていただきました。これからも考え続けていきます。